

2020年2月9日、海老名市災害救援ボランティア養成講座の報告

作成：福田博

19年度の災害救援ボランティア養成講座は、2020年2月9日に、海老名市総合福祉会館の元気クラブ室で開催された。参加者は合計64名で、過去最大でした。参加者の内訳は、一般受講者（高齢者から若者を含む市民）27名、海老名青年会議所（JC）3名、社協24名（受講者16名、説明役8名、常務理事、事務局長）、危機管理課職員（2名）、災ボラ会員8名となっている。

《参加者数について》

一般参加者が27名と多かった理由として、2019年の台風19号で海老名市民が避難した経験があったこと、養成講座を従来の2日間から1日に短縮したこと、広報活動が充実したこと：「海老名災害ボランティアだより」（12/1）、「社協えびな」1/1、「広報えびな」1/15、「タウンニュース海老名」1/24号などである（災ボラ代表の意見）。

午前中の会場（座学）は元気クラブ室で、64人が入るには狭かった。午後（昼食後）の運営訓練は1階の第一娯楽室～第三娯楽室、廊下、談話室に、受付～帰着報告の場所を作って実施した。

《講座（座学）の内容について》（午前中に実施）

各団体からの報告書時間は、危機管理課、社協、災ボラはそれぞれ30分前後で、神奈川県社協は50分の予定で、合計で合計140分だった。内容では「分かりやすかった」という声（一般参加者）が聞かれた。

《昼食1時間》

災害食（アルファ化米）と副食を災ボラ会員3名（水本晶子、嶋原やわた、山本由美子）が準備した。昼食準備をした方々は新型コロナウイルス問題があったので、「マスク」と「手の消毒」には気を使った。食事は個人別に分けて、各人の机の上に置いた。一般市民から「準備している様子も見たい」という意見もあった

《災害ボラセンターの開設・運営訓練について》（午後に実施、約1時間）

参加者（一般+社協+災ボラ）が3グループに分かれて、受付班、オリエンテーション、マッチング・送り出し班、資機材班、帰着報告班を巡回した。説明員に質問する時間なども含めると、もう少しゆっくり回るようにした方が良かったのではないかという意見があった。渡された書類を次にどこに提出するかを、その書類に「目立つように記載して」欲しいとの意見があった。受講者が40名を超えたが人の循環は概ね円滑にいったと思う。

《まとめ、修了証の授与、閉会》

参加者の「振り返り」の時間を十分に設け、「アンケート調査票」を配布し記入してもらうことが必要だという意見が出された。

